

## 2023年活動スローガン 「世界の子供達に 笑顔いっぱい 明るい未来を」

## 報 告

2022年10月～12月支援分

## 〈バングラデシュ〉

## ●トイレ寄付

- ・三木市ユネスコ協会様よりカバシア郡の学校にトイレを1基
- ・有志の方よりカバシア郡の学校にトイレを1基

## ●その他の寄付

- ・大阪 I ソンクラブ様より職業訓練所に研修材料
- ・佐賀県のNPO法人「POSA」の倉富彰秀氏よりエンゼルホームの診療所にエアコン
- ・「手作りボランティアサークル ドンノバ」様よりYURIKO エンゼルスールのパソコン関連機器
- ・会員有志の方よりエンゼルホームの子ども達に学校の制服と職業訓練所の研修生に研修材料
- ・有志の方よりエンゼルホーム事務所に停電時自家発電装置
- ・会員有志の方よりエンゼルホームに停電時用バッテリー8台と図書220冊

## ●アイキャンプ

- ・11月にエンゼルホーム内の診療所で「POSA」の医師らによってアイキャンプが行われ、97名の白内障患者の手術が行われました。

## 〈お知らせ〉

## ●会員総会 3月10日(金) 13:30～

- ・会員の方には後日案内をお送りしますのでご出席くださいますようお願いいたします。

## 〈フィリピン〉

10月にフィリピンの「財団法人北ルソン比日基金」へ2022年度奨学金200万円を寄付

## 〈国内活動〉

- あおぞら食堂「エンゼル」(子ども食堂)への寄付
- ・国際ソロプチミスト伊丹様より2万円寄付
- ・有志の方より食材の寄付
- 12月に大阪のJR天王寺駅前街頭募金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。

## イベント情報

4/5  
(水)

## 春のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター(伊丹市)  
時間: 10:00～14:00

## ●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。事務所までご連絡下さい。  
☆取り扱っていないもの☆  
家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

## 編集後記

「平和って当たり前だ」と思っていたのですが、昨年から報道でウクライナの現状を見聞きし、とても悲しく、また今ある平和が当たり前ではないのだと実感しています。「平和を願い、人にも物にも思いやる心、そして感謝の心を育てよう」今年一年の抱負として自分に言い聞かせていきたいと思えます。

## 2023年 行事予定

1月現在

|     |               |              |               |     |
|-----|---------------|--------------|---------------|-----|
| 2月  | 4日(土)         | チャリティバザー     | フレンテ西宮 5F     | 西宮市 |
| 4月  | 5日(水)         | 春のチャリティバザー   | 本協会ボランティアセンター | 伊丹市 |
| 5月  | 20日(土)        | チャリティバザー     | 名谷駅前広場        | 神戸市 |
| 6月  | 4日(日)         | 楽しいボランティアひろば | 本協会ボランティアセンター | 伊丹市 |
| 7月  | 22日(土)～30日(日) | バングラデシュツアー   | バングラデシュ       |     |
| 9月  | 2日(土)         | チャリティイベント    | 伊丹アイフォニックホール  | 伊丹市 |
| 10月 | 18日(水)        | 秋のチャリティバザー   | 本協会ボランティアセンター | 伊丹市 |
| 12月 | 2日(土)～10日(日)  | バングラデシュツアー   | バングラデシュ       |     |

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

## 会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

## ●正会員

一般会員 年額1口 6,000円  
特別会員 年額1口30,000円

## ●DCEF会員(教育里親)

1か月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。  
郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号  
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよりしくお願いします。

会員数: 一般会員 631名  
DCEF会員 590名  
(1月1日現在)

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地  
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608  
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>  
e-mail ● [post@angel-ngo.gr.jp](mailto:post@angel-ngo.gr.jp)

## ANGEL NEW

通巻202号  
2023.01

## 謹賀新年



国際エンゼル協会創立40周年記念式典

新年おめでとうございます。皆様方にはお健やかに新年をお迎えになられたことと存じます。

昨年は長きにわたる皆様のお力添えにより、国際エンゼル協会創立40周年を迎えることができました。9月23日に開催した記念式典では350名あまりの方が来られ共に40周年を祝いました。懐かしい会員さんやご家族の方々が来られ、会場はあたたかい雰囲気に包まれていました。今日まで夢中で走ってきましたが、振り返れば順調な日々ばかりではありませんでした。いろいろ試行錯誤しながら今日までまいりました。楽しいことも大変な時も多くの方に支えられ、皆さんと共に乗り越えてきたことに改めて感謝申し上げます。特に海外支援の中でもバングラデシュのプロジェクトに主力を注いでまいりましたが、多くの学生達が社会人となり、就職し、家族を支え幸せな人生を送っていることは私達にとって大きな喜びでもあります。そしてこの活動を通して私達も他人のことを思い、また共に助け合い、それが生きがいになっているように思います。

2020年から新型コロナウイルスが蔓延し、そしてロシアとウクライナの戦争、異常気象による災害、経済の行き詰まりなど、世界中の人々が不安にさらされています。その中で今私達にできることは何かと考えると、やはり世界の子供達に教育を受け、将来の夢と希望を持てるように支援活動が続けていくことだと思います。コツコツと50年、60年と続けてまいりたいと思っておりますので、どうぞこれからもご支援くださいますようお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子

## バン格拉デシュレポート

昨年10月、実に2年9ヶ月ぶりにバングラデシュへ行ってきました。現地ではこの間に大きく発展したところ、そして発展の恩恵から取り残され日々大変な思いをしている方々、そして激動の中でも大切なことを変わらず守り続けているエンゼルホームと、色々な物や事柄を見て、肌で感じることができました。以前に比べて移動や滞在も劇的に快適になっています。ぜひ今年は皆様と一緒にバングラデシュに行きたいと思います。

報告:東村 良平

### エンゼルホームの様子



いただいたリコーダーのレッスン会



子ども達との交流会



みんなで外食



元気いっぱいわんぱくな男の子達



エンゼルホームの子ども達は変わらず元気いっぱいに私達をもてなしてくれ、一緒にリコーダーを吹いたり、食事をしたり、ダッカに遠足に出かけたりと、子ども達との交流を楽しみました。その中でも彼らはいつも私達の事を気遣ってくれて、外を歩くときは足元が危なくないように追い払ってくれたり、本当に暖かい心を持った子どもに育っているなあと感動しました。もちろん子どもらしくおちゃらけたり、初めて乗るエスカレーターで大騒ぎしたりと、のびのびと楽しむ姿も見られました。エンゼルホームの良いところは大きな子から小さな子へと、しっかりと引き継がれています。

### 農村の様子



識字教室に興味津々な子ども達



バナナの木の下の奨学生と交流会



時が止まったようにのどかな風景の広がる農村、子ども達はいつまでも純粋で、青年達は夢と希望に溢れていました。しかしここにはまだ電気や水道が無い家もあったり、トイレの無い学校、学校に通えず文字を読むことができない女性があります。経済的に苦しくて満足に学用品を買うことができない若者達も、そのような中でも自分達が勉強してお金を稼ぎ、家族や村を助けようと必死で頑張っています。

### エンゼルホーム周辺の様子

エンゼルホームまでの道はずいぶん舗装工事がされており、ダッカ市内の混雑を抜けるとあっという間にホームまで行く事ができました。しかし主要道路優先の政策のためホームの前の路地はいつまでも工事が進まず、子ども達は学校に行くにも荒れた道の脇を抜けていくしかありません。近くにあるコナバリマーケットにはたくさんの人が集まり、買い物をしたり食事をしたりとバングラデシュらしい活気が満ちていました。

私達がバングラデシュを訪れた際、現地日本人学校に赴任されている長谷川先生にお会いしました。先生はエンゼルホームを訪れた際に、ホームの様子にとっても感動されたとおっしゃってくださいました。先生がどのように感じられたのか、ぜひ皆様にも紹介させていただきたいと思っています。



### エンゼルホームが教えてくれたこと

在バングラデシュ日本国大使館付属ダッカ日本人学校  
長谷川 雄平

エンゼルホームを訪ねると身体中にエネルギーが蓄えられるのが分かる。その源は、子ども達の眩しすぎる笑顔、強くたくましく生きるヴァイタリティである。最初の訪問で、私はエンゼルホームの子ども達に魅了された。その理由の一端を施設内で見かけた言葉からまとめてみました。

1つ目は「It's not important where you from. It's important where you go」である。

この言葉は現地責任者であるアジズル・バリさんの言葉である、施設で生活する子ども達の境遇は一人一人違う。「大切なことは、どこから来たのかではなく、どこに向かうかである」この言葉には、変えることのできない過去ではなく、未来へつなげていくために「今」をどう生きるのかを考えさせる言葉ではないだろうか。歓迎会の中でも、「今」を大切にしていることが強く感じられた。国や性別、年齢を問わず、目の前にいる私達を心から迎えてくれた。幼稚園の年中と小学校一年生の私の息子たちにも、腰をかがめ視線を合わせて関わってくれた。季節の花や思いを込めた手作りの筆箱のプレゼントまで準備してくれた。初めて会う人にも関わらず、「人」「人」との出会いを大事にする気持ち、感謝の気持ちが細部にまで表れていた。「一期一会」という言葉が日本の茶道の文化の言葉にある。しかし、それをはるかに凌駕するものであった。「愛」に包まれた言葉が子ども達を励まし、その背中を力強く押していた。

2つ目は「It's your life you color it.」である。

「自分の人生、決めるのは自分」エンゼルホームの子どもたちには明確な将来の夢がある。「医者になりたい」「困っている人を救いたい」「先生になりたい」「貧しい子ども達を救いたい」追い求める自分の人生、夢があるからこそ、身のまわりをきれいにすることができる。順序だてて考え、準備や片付けなど行動に移すことができる。「やらされる」のではなく、「なりたいたい自分」になるために。だからこそ、何事にも前向きに取り組み、その中から多くのことを吸収することができるのだ。子ども達の瞳の輝きには「自分の人生を自分らしく精いっぱい生きる」との強い決意が表れている。私を魅了したヴァイタリティの所以である。

ここでは書ききれない数々の教えが、太陽のように輝く子ども達の笑顔に帰結している。一朝一夕にできることではない。40年の歴史の確かな積み重ねである。また多くの人々の支えによるものである。だからこそ、人を本気で感動させられるのだ。「子ども達が強く、しなやかに成長できる」私が初めてそう思えた場所である。「『教育』こそ国の宝」はエンゼルホームの創立者の故川村百合子様の言葉である。力強く未来を生き抜く力をもった子ども達を、エンゼルホームのように私は育てていきたい。エンゼルホームは私が目指す「教育の理想郷」である。

